

## 房州からカリフォルニアへ渡ったアワビ潜水夫らを調べに来房した キース・W・コックスとチウラ・Z・オバタ

大場 俊雄 (元千葉県水産試験場 技師)

### キース・W・コックス

私が千葉県水産試験場（館山市館山）の技師に採用されましたのは、1961(昭和 36)年です。アワビ種苗生産技術の開発研究を命じられました。まず、アワビの発生に関する文献を読み込み、実験が年 2 回できるように、産卵期がずれるクロアワビとトコブシの親貝を飼育し始めました。それぞれの種の産卵期に産卵誘発実験を繰り返しました。1963 (昭和 38)年になってトコブシで受精卵が得られ、孵化した幼生を飼育し続けました。

カリフォルニア州資源庁、漁類および遊漁部 (The Resources Agency of California Department of Fish and Game) のアワビ研究者キース・W・コックス (Keith W. Cox) が、1963 (昭和 38)年 3 月に千葉県水産試験場に来ました。実験室内水槽でクロアワビとトコブシを飼育している状況を視察して帰りました。

1964 (昭和 39)年 11 月 17 日、コックスと水産庁東海区水産研究所 猪野峻増殖部長とが、千葉県水産試験場でやっているクロアワビの産卵誘発実験を視察に来場しました。

同日、コックスと猪野、大場は千倉町川口漁業協同組合植木泰滋参事の案内で千倉町千田の平野家を訪ねました。房州からカリフォルニアへ渡った、平野マツの義父、小谷仲治郎やアワビ潜水夫についてマツから話を聞き、カリフォルニアで獲ったアワビの貝殻と撮った写真を見せてもらいました。私にとっては初めて手にするアメリカ産アワビの貝殻でした。渡米アワビ潜水夫らのことも、このとき初めて知ったのです。

平野家を辞してすぐ、猪野部長が房州からカリフォルニアへ行ったアワビ潜水夫につき、

「大場君これ面白いよ」と言ったのです。これが、その後の米国のアワビ漁業、アワビ加工業を調べる切っ掛けになりました。猪野峻先生には、東京水産大学 3 学年のときに軟体動物学講義を受け、アワビについて学んだことがありました。

またコックスからは、千葉県水産試験場でやっている親アワビ飼育、産卵誘発実験などを映像に撮影して送って欲しいと頼まれたことがあります。千葉県水産試験場の堀口辰司技師に、親貝を水産試験場に搬入するところから始まる一連の流れを 16 mm フィルムに撮影してもらい、郵送しました。次にコックスが千葉県水産試験場に来たとき、カリフォルニアで何回も (many times) 映写したと言っていました。コックスは千葉県水産試験場に都合 4 回きて、一緒に実験もしました。

1967 (昭和 42)年、千葉県水産試験場千倉分場が千倉町平磯に開所し、アワビ種苗生産事業が始まりました。私はここに転勤し、千倉町南朝夷に転居しました。生物飼育には生物の近くに住んでいた方が良いからです。分場では種苗生産作業に人手がかかるので、平磯、千田、忽戸から臨時職員を雇い入れました。1968 (昭和 43)年からクロアワビ放流用種苗を県下の漁業協同組合に配布できるようになりました。

心に余裕が生まれました。昼休みなどに千倉町、白浜町から通っている職員に地元の渡米者について話を聞きました。土曜日午後や日曜日、自転車で聞き取りに回りました。そのころは、帰国してきた潜水夫、アワビ加工で働いた人たちが 5、6 人健在でした。

農林省下関水産大学校長となっていた猪野峻先生は、1975 (昭和 50)年、『海の世界』241

号に、カリフォルニア州のアワビ漁業開拓と房州潜水夫移民について書きました。私はそれまでの調査結果を取りまとめ、猪野先生に校閲していただいて、1976(昭和51)年、『地方史研究』第26巻第5号に報告しました。

## チウラ・Z・オバタ

<sup>おばた</sup>小圃千浦は渡米一世、日系人画家です。オバタは渡米した房州人を調べるため、1968(昭和43)年5月4日に千葉県水産試験場千倉分場に来ました。そのとき交換したオバタの名刺に日本語で「南加州大学美術科教授」と書かれていたと記憶しています。保存しておいた名刺を今回探し出せませんでした。

オバタが来房する以前、私は渡米した小谷源之助、小谷仲治郎兄弟につき教えてもらうため、文部省文化財保護委員会に倉田文作(小谷の甥)を訪ねたことがあります。期待した結果が得られず、かえって小谷について調べてくれるよう倉田に励まされました。

その後になって倉田文作から「オバタが大場を訪ねるのでよろしく頼む」という内容の手紙をもらいました。5月4日に千葉県水産試験場千倉分場へ来てくれるよう倉田を通じて手配しました。

当日私は、渡米したアワビ漁業関係者についてそれまでに調べた結果をオバタに話しました。オバタは、小谷源之助が渡米後アワビを漁獲し、干しアワビをつくる根拠地選定につき書かれた資料を帰米後に送ると約束してくれました。オバタが日本語で筆写してくれた資料を航空郵便にて受け取りました。資料のタイトルは英文で書いてありました。私は原資料を未だに探し出しておりません。調べなくてはならないことがまだ多々あります。

以上で、「房州からカリフォルニアへ渡ったアワビ潜水夫らを調べに来房したキース・W・コックスとチウラ・Z・オバタ」についての講話を終わります。



<米国のアワビ漁業に潜水技術を導入した小谷源之助と千葉県出身漁業者>

地方史研究 第26巻第5号 地方史研究協議会 1976(昭和51)年

<カリフォルニアにおけるアワビ加工技術開発と日本人の活動>

地方史研究 第28巻第3号 地方史研究協議会 1978(昭和53)年

<カリフォルニアのアワビ漁業に従事した日本人>

くろしお文化 第8号 黒汐資料館 1978(昭和53)年

<千葉県における潜水器漁業略史>

房総の郷土史 第6号 千葉県郷土史研究連絡協議会 1978(昭和53)年

<潜水器漁業百年―アワビとタイラギの万祝> 楽水 第708号 楽水会 1979(昭和54)年

<潜水器漁業百年―潜水技術の伝播―> 楽水 第710号 楽水会 1980(昭和55)年

<潜水器漁業百年―潜水技術の定着―> 楽水 第711号 楽水会 1980(昭和55)年

<潜水器漁業百年―カリフォルニア州における出稼ぎ日本人潜水夫と潜水免許証―>

楽水 第713号 楽水会 1981(昭和56)年

<潜水器漁業百年―潜水夫の出稼ぎ―> 楽水 第717号 楽水会 1982(昭和57)年

<小谷ふくとカリフォルニアのアワビ漁業>

鴨川風土記 創刊号 鴨川市立図書館 1980(昭和55)年

<千葉県の漁業の発展> 房総の郷土史 第19号 千葉県郷土史研究連絡協議会 1991(平成3)年

<藩医田代謙斎> 鴨川風土記 第2巻 鴨川市立図書館 1992(平成4)年

<早川金太郎(雪洲)の渡米環境と旅券について>

房総の郷土史 第22号 千葉県郷土史研究連絡協議会 1994(平成6)年

<早川家に残る雪洲の書画>

房総の郷土史 第25号 千葉県郷土史研究連絡協議会 1997(平成9)年

<太平洋を渡ったアワビ潜り> 房総及房総人 第784号 房総社 2000(平成12)年

<花房藩医の娘・ふくの渡米> 房総及房総人 第785号 房総社 2001(平成13)年

<あわび食文化> 水産振興 第461号 東京水産振興会 2006(平成18)年

<倉田白羊の妻ひでについて>

地域文化研究 第15号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化研究センター 2006(平成18)年

<加州南部漁業の開拓者佐野初治について>

房総の郷土史 第36号 千葉県郷土史研究連絡協議会 2008(平成20)年

<竹久夢二と早川雪洲の出会いとその後の雪洲>

房総の郷土史 第39号 千葉県郷土史研究連絡協議会 2011(平成23)年

<翁久允と竹久茂次郎に下付された旅券の内容>

地域文化研究 第17号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化研究センター 2009(平成21)年

<米国アワビ漁業の経営者、井出百太郎>

地域文化研究 第18号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化研究センター  
2010(平成22)年 発行年は奥付記載に拠る。表紙には2009(平成21)年とある。

<米国でアワビ潜水器漁業、干鮑加工業を営んだ護俊肇>

地域文化研究 第19号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化センター  
2011(平成23)年 発行年は奥付記載に拠る。表紙には2010(平成22)年とある。

<竹久夢二が素描した小川断の墓碑>

地域文化研究 第20号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化研究センター 2011(平成23)年

<竹久夢二が素描した小谷源之助の墓碑>

地域文化研究 第21号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化研究センター 2012(平成24)年

<夢二がポイントロバスで描いた「滞米淡彩スケッチ」>

地域文化研究 第22号 国立八戸工業高等専門学校 地域文化研究センター 2013(平成25)年

<白鷹丸カリフォルニア州モンレー湾に> 楽水 第874号 楽水会 2021(令和3)年

【著書】

『房総の潜水器漁業史』 崙書房出版 1993(平成5)年

『あわび文化と日本人』 成山堂書店 2000(平成12)年

『房総から広がる潜水器漁業史』 崙書房出版 2015(平成27)年

『早川雪洲一房総が生んだ国際俳優』 崙書房出版 2021(令和3)年

『明治・大正・昭和前期 外国の海に潜った潜水夫』 たけしま出版 2023(令和5)年

【英文レポート】

**Gennosuke Kodani and the Abalone Fishermen from Chiba, Japan Who Introduced Diving Methods into the California Abalone Fishery, *J.B. Phillips Historical Fisheries Report: Special Edition, The Monterey Maritime & History Museum, 2006***

楽水の人びと抄編纂会：『楽水の人びと抄』 生物研究社 2005(平成17)年  
(小谷仲治郎ほかを分担執筆した)

大場俊雄の報文等のほか、同姓大場ヤス子がモンレーのアワビ漁業について、下に記した本の中で詠み、書いている。

『歌集 鮑』 崙書房出版 2013(平成25)年

『房州那古寺界限』 崙書房出版 2019(令和元)年

『私の海外旅行記』 房文研(房州文化研究所) 2024(令和6)年